

# 廃炉・汚染水対策等に関する国の取組

原子力災害対策本部 廃炉・汚染水対策チーム  
平成27年12月22日

# 国内外への分かりやすい情報発信に向けた取組①

## 英語版の広報動画の周知・展開を進めています。

- ▶ 前回御紹介した英語版の広報動画（「Fukushima Today」）について、高木経済産業副大臣の働きかけにより、各省庁の政務から諸外国の政府関係者に手交・PRを進めているところ。（主な例）
  - ・高木経済産業副大臣がG20エネルギー大臣会合/貿易大臣会合等の場で各国要人へDVDを手交・PR。
  - ・武藤外務副大臣、富岡文部科学副大臣、松本内閣府副大臣等も面談・海外出張時にDVDを手交・PR。
- ▶ この他、在外公館にも配布し、各種イベント等で活用いただけるよう手配。

## 日本語版の広報動画の案を作成しました。

（後ほど上映）

- ▶ 本日の御意見を踏まえて完成させた上で、HPにて公表するとともに、各種説明会やイベントなどで上映予定。



## パンフレット『廃炉の大切な話 – 福島第一原子力発電所の今とこれから』の案を作成しました。

（後ほど御説明）

- ▶ 「正確で新しい情報」、「今、知りたい情報」を整理し、可能な限り具体的に提示。
- ▶ 放射線の基礎知識についてもわかりやすく解説。
- ▶ 本日の御意見も踏まえて完成させた上で、HPにて公表するとともに、御希望の自治体等に配布予定。



# 国内外への分かりやすい情報発信に向けた取組②

## <「福島第一廃炉国際フォーラム」の全体像>

### 会議プログラム ～福島に国内外の叡智を結集させる～

#### ■ 初日（廃炉を巡る国内外の実情：4/10）

|     | テーマ                             | プレゼンター                        |
|-----|---------------------------------|-------------------------------|
| 午前  | 開会挨拶<br>基調講演                    | ○政府、原賠・廃炉機構、<br>OECD/NEA、IAEA |
| 午後① | 海外での廃炉に関する地域社会とのコミュニケーション経験を共有  | ○廃炉に関わる海外政府機関                 |
| 午後② | 1F廃炉の現状と将来展望<br>一地域社会との関わりを中心にー | ○東京電力、地元有識者、<br>国際機関等         |

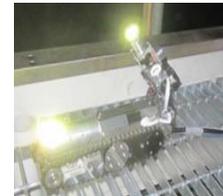
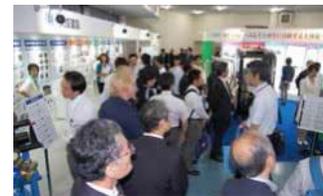
#### ■ 2日目（1F廃炉の課題と今後：4/11）

|                                    | テーマ                      | プレゼンター        |
|------------------------------------|--------------------------|---------------|
| 午前①                                | 特別講演                     | ○廃炉に関わる海外政府機関 |
| テクニカルセッション: 技術的な課題の克服・解決に向けた専門的な議論 |                          |               |
| 午前②                                | リスク評価<br>(パネルディスカッション)   | ○国内外事業者、有識者   |
| 午後①                                | デブリ取り出し<br>(パネルディスカッション) |               |
| 午後②                                | 廃棄物対策<br>(パネルディスカッション)   |               |

### ショーケース ～ビジネスチャンス創出、風評被害払拭～

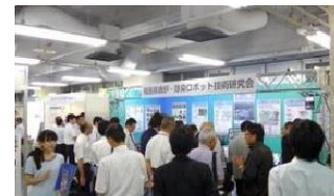
#### ■ 企業・研究機関による「廃炉技術展」：4/10～4/11

○国内外の関連企業、大学等によるハイレベルなR&D成果のPR  
やシーズとニーズのマッチングの場を創出



#### ■ 地元参画による「特別展」：4/10～4/11

○福島県廃炉・除染ロボット技術研究会の特設展示を実施。  
○福島県による復興展示を実施予定。  
○福島県観光物産交流協会と協力し、地元産品をケータリング。



### 視察ツアー ～現場の「今」を体感～

- コース①：福島第一原子力発電所等 (4/12)
- コース②：福島県環境創造センター

○国内外専門家、事業者等を対象とする予定。



# 国内外への分かりやすい情報発信に向けた取組③

廃炉・汚染水対策に係る風評被害払拭のため、経済団体、流通団体への説明会を実施しています。

- 本年10月からこれまでで計6回実施。
- 説明先の団体からは、「連日の報道で見聞きする内容と差があると感じた。」、「自らも、こういった説明をする機会を増やして、風評被害の防止を図っていきたい。」といった意見もある一方で、「説明が技術的で分かりづらい」といった意見が寄せられた。
- こうした意見も踏まえながら、引き続き、このような説明会を実施していく予定。

## <説明先一覧>

### 1. 経済団体

| 団体名         | 日時    |
|-------------|-------|
| 全国中小企業団体中央会 | 10/30 |
| 日本商工会議所     | 11/18 |
| 経済同友会       | 12/4  |

### 2. 流通団体

| 団体名             | 日時    |
|-----------------|-------|
| 日本フランチャイズチェーン協会 | 10/23 |
| 流通団体※向けの定例懇談会   | 11/4  |
| 通信販売協会          | 11/12 |

※①日本専門店協会、②日本チェーンストア協会、③日本百貨店協会、④新日本スーパーマーケット協会、⑤日本スーパーマーケット協会、⑥日本ショッピングセンター協会、⑦日本フランチャイズチェーン協会、⑧日本チェーンドラッグストア協会、⑨日本ボランタリーチェーン協会、⑩日本小売業協会

輸入規制の解除に向け、諸外国への情報提供を強化していきます。

- 本年10月には台湾を訪問し、規制当局を始めとする諸機関と意見交換を実施。
- 汚染水関連対策及び周辺環境のモニタリング状況等を説明し、科学的根拠や国際的共通認識に基づく措置を講じるよう要請。
- 引き続き、諸外国への情報提供を強化していく予定。

### 訪問先

- 衛生福利部食品薬物管理署（日本の厚生労働省に相当。台湾の輸入規制に関する責任官庁。）
- 行政院原子能委員会（原子力施設の安全監督を実施。日本産食品の放射性物質検査を担当。）を始め、行政機関や政府系シンクタンクを訪問。

## ふたば未来学園高校出張授業について

本年4月に開校した福島県立ふたば未来学園高等学校で出張授業を行いました。（第7回評議会でも御案内）

今後も、各所からの御要望に応じ、きめ細やかな情報提供を行っていきます。

### ◇概要

- ・日時：11月11日（水）13:45～15:35
- ・場所：ふたば未来学園高校体育館
- ・対象：1年生全員

### ◇講義の内容

- ①国家公務員の仕事など
- ②廃炉・汚染水対策について
- ③長期エネルギー需給見通しについて



講義の様子



グループワークの様子

### 【感想など】

- ・数十年という廃炉作業の長い道りを再認識した。
- ・「復興」といっても漠然としていたが、実際には様々なものが良い方向へ向かっていると感じた。
- ・震災以降、福島第一原発の状況が非常に改善していると感じた。
- ・一日7000人もの作業員の方々が福島第一原発で働いているということに感謝の思いをもった。

## 廃炉・汚染水対策事業

平成27年度補正予算案額 **156.5億円**

### 事業の内容

#### 事業目的・概要

##### (1) 廃炉・汚染水対策事業

- 福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水対策を進めていく上で、技術的に難易度が高く、国が前面に立って取り組む必要のある研究開発を支援することにより、対策を円滑に進めることを目的とします。
- 具体的には、廃炉・汚染水対策が進捗していく中で、想定し得ない技術的課題に対応するため、国からの補助により基金を造成し、当該基金を活用して、研究開発を支援します。

##### (2) 放射性物質研究拠点施設等運営事業

- 日本原子力研究開発機構が、①遠隔操作機器・装置の開発・実証試験のための施設（モックアップ試験施設）及び②放射性物質の分析・研究のための施設を整備・運用するための費用について、補助を行います。

#### 成果目標

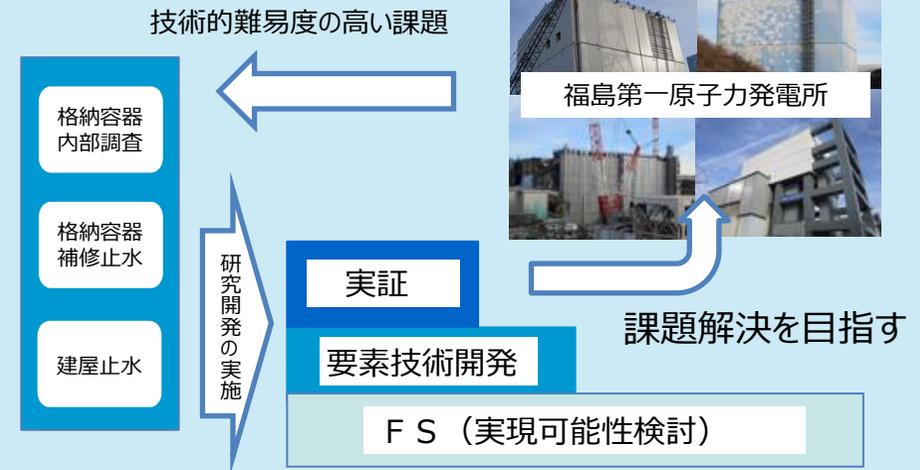
- 30～40年後の廃止措置終了を目指し、廃炉・汚染水対策を進めていく上での課題解決を図ります。

#### 条件（対象者、対象行為、補助率等）



### 事業イメージ

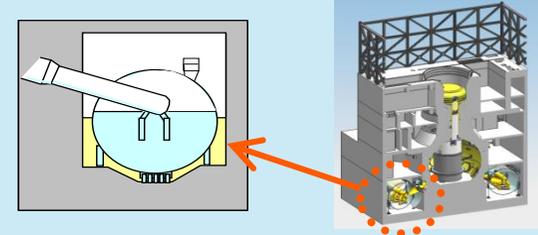
#### (1) 廃炉・汚染水対策事業



#### (2) 放射性物質研究拠点施設等運営事業

##### ①モックアップ試験施設

原子炉格納容器下部の実寸大模型（モックアップ）等を活用し、漏えい箇所を調査・補修するロボットの実証試験や運転員の訓練等を行うための施設を運用。



##### ②放射性物質の分析・研究施設

福島第一原子力発電所の燃料デブリや放射性廃棄物等を遮へい機能の高い部屋で、分析・研究するための施設を整備。

